



総合質管理(TQM)部ニュース

2023年 11月号 (第5号)



医療安全管理課より、報告された出来事とその対処法を紹介します。

作業の中断後、再開した作業の間違いに気づかなかった

Case1) ある日、臨時点滴の指示受けをしていた。点滴は患者1人ずつ別々のboxに入っていた。Boxから点滴を取り出し、作業していたところ応援に呼ばれその場を離れた。その後、点滴の指示受けを継続して行ったところ、別の患者の点滴にラベルを貼付していたことに気付かないままであった。別のスタッフが、指示された点滴と準備された点滴が別の薬剤であることに気付いた。

Case2) 作業途中で電話がかかってきた。会話に集中してしまい、電話を終えて作業を再開する際、どの工程まで進めていたのかわからなくなってしまった。しかし、作業工程を遡って確認せずに作業を再開したところ、次の作業工程の手順を飛ばして作業を続けてしまった。

ヒューマンファクターの視点

作業中に割り込み(応援にかけつける・電話対応)を行うと、作業に戻った時に勘違いや誤った状況確認が発生しやすくなり、**作業中断後の再開という場面には大きなリスクが潜んでいます。**

作業を中断した時にどこまで作業したのかを記憶だけに頼っていると、記憶の特性から中断したところを忘れてしまいがちです。一度に保持される情報の容量の大きさにも限界(7±2個)があることから、記憶だけを頼りに再開すると手順を飛ばしてしまうなどのヒューマンエラーを誘発しがちです。

作業再開時に中断の状況が分かる様に「どこまで終了したか」「どこから再開するのか」の目印やメモ等で手がかりを残すことが重要です。もし、手がかりを残せなかった場合、ここからだろうという曖昧な記憶に頼らず、**最初に戻って手順の再確認をします。**

human



**作業を中断する時は、再開時に間違えないための目印を残しましょう！
どこから再開するのが曖昧な場合は、最初の手順に戻って再確認しましょう！**

文責：今村(医療安全管理課)

感染管理課

みなさん、**標準予防策**、出来ていますかー??? 言うだけではダメですよ～、実践できるようになりましょう。

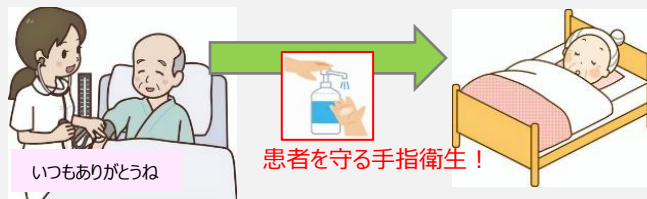
標準予防策において一番大事な事。それは、今からあなたが行う処置(ケア)で、汚染するかもしれない部位を何を使ってどう防護するか、です! また私たちは医療従事者です。自分だけ守ってはダメです。相手(環境)も守る事が大切です。

まず基本を覚えましょう

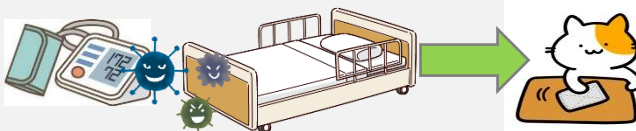


標準予防策とは
感染症の有無に関係なく
全ての人の体液や浸出液は
感染性がある者として対応する

手指衛生、環境清掃
咳エチケット、適切な防護具の着脱



あなたは家族に
自信をもって自分の病院を
すすめられますか?



物品や環境に付いた菌
は拭いて除去しよう。



マスクは鼻と口をしっかりと覆ってね
症状がある人は、マスクを付けて
病原菌を飛ばさないようにしよう。



防護具は正しく脱がない
と感染しちゃうよ。
11月の全体研修で脱ぎ
方をマスターしよう。

認定看護師のつぶやき

「粗探し(あらかし)」とは、相手の悪い点をあげつらおうとして執拗に詮索すること(実用日本語表現辞典より)。感染管理をしていると職員からたまにこのような言葉を言われます。目的は相手を傷つけようとしているのではなく、あなたと同じ「患者のため」なのです。これからは「粗探し→新探し」で患者にとって、あなたにとって安全で安心な感染対策は何かを一緒に見つけて行きませんか。

文責：感染管理課 右田早苗